

みんなで考える家庭ごみ減量会議
～琴浦自分ごと化会議～

それは、未来をつくれるか。



第1回 町民研修

2021年9月18日
構想日本 特別研究員
熊井 成和

● 市民参加型（行政への市民参加）とは？

● 自分ごと化会議とは？

改善提案シート
自分ごと化会議の事例

● おおまかな流れは？

参加者の役割と準備

● 参考

「自分ごと化会議」の応募率
自分ごと化会議参加住民アンケート

● 無作為抽出参加住民の「その後」

これまで

公募方式

広報紙等で募集し、市民からの応募によって決める方法。

<特徴>

意識の高い人の声を聞くことができる一方で、利害関係者が手を挙げたり、参加者が特定の人に固定化する傾向。

推薦・一本釣り方式

団体からの推薦や首長の一本釣りで決める方法。

<特徴>

専門性の高い人や地域の有力者を選ぶことができる一方、毎回団体の長を選ぶことによる形骸化や参加者の固定化などの課題あり。

これから

公募方式

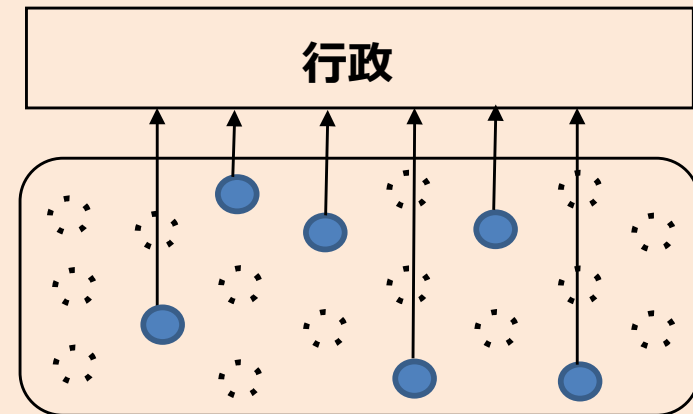
推薦・一本釣り方式

無作為抽出方式

無作為で抽出した市民に案内を送付し、その中の希望者が行政の取組みに参加する方法。

<特徴>

行政と接点の少なかった人、参加を躊躇していた人など、広範な市民の参加を望める。



参加手法を一つ追加するだけで、市民と行政の距離が大きく近づくことが期待できる。

【目的】

- 身近な問題を政治・行政任せにせず、住民自らが自分事として町の状況を知り意見を出し合う。
- 行政の取組について具体的に考え、課題解決を目指す。

【基本的な考え方】

(1) 参加する住民の選び方が無作為抽出

- 住民基本台帳や選挙人名簿から、無作為に抽出した住民に案内を送付し、応募のあった人が委員として参加する。

(2) 地域の課題について、生活から見える現象をもとに住民間で議論

- 進め方のシナリオは一切作らない。参加する住民の発言から論点が生まれ議論を発展させていく。
- 行政への批判だけではなく、提案するための議論になるよう、外部の人間がコーディネーターを務める。コーディネーターは安心して議論できる環境を作る。

(3) 「個人でできること」「地域でできること」から考える

- 行政や各種団体への要望に終始するのではなく、課題解決のためにまずは**自分たちでできること**から考える。
- 「言っぱなし」で終わらないように、参加者は具体的な課題とその改善策を記入する。

住民の生活実感が議論の入口
「何をすべきか」ではなく「自分はどうありたいか」の議論

改善提案シート

名前： _____

あなたが考える現状の課題	その課題を解決する方法
<例> 公園が利用されていない	(住民の役割) ・個人として 知らない公園が多いので把握する ・地域として 草刈りなど、公園整備のサポートをする 休憩用のベンチを提供する
	(行政の役割) まちの中にある遊び場のマップを作成する
	(その他)

あなたが考える現状の課題	その課題を解決する方法
議論をする中で参加委員が考えた現状の課題を記載。	(住民の役割) ・個人としてできること ・地域としてできること
	自助 共助
	(行政の役割) 公助
	(その他)

その課題を解決するにあたり、個人、地域、行政それぞれの役割を記載。

自分ごと化会議の事例

行政主催

ごみ問題 福岡県大刀洗町 2014年度	地域包括ケア 福岡県大刀洗町 2015年度	子育て支援 福岡県大刀洗町 2015年度
総合戦略 千葉県富津市、香川県三木町、茨城県行方市 2015年度		総合計画 滋賀県高島市 2015年度
防災 静岡県浜松市 2016年度	防災 福岡県大刀洗町 2016、17年度	健康づくり 群馬県太田市 2017年度
学校の跡地活用 千葉県鴨川市 2017～18年度	ゴミ問題 群馬県太田市 2018年度	市民会館の建替え 静岡県湖西市 2018年度
暮らしの中の鉄道 福岡県大刀洗町 2018年度	オリンピックの町 北海道幕別町 2018～19年度	総合計画 北海道清水町 2019年度
行政の情報発信 群馬県太田市 2019年度	第2次総合戦略 兵庫県川西市 2019年度	健康づくり 福岡県大刀洗町 2019年度

議会・議会会派主催

コミュニティ施設 神奈川県伊勢原市 2016年度	ゴミ問題 北海道恵庭市 2017年度
駅前の再整備 神奈川県伊勢原市 2018～19年度	子育て環境 東京都杉並区 2018年度
新庄村役場庁舎 岡山県新庄村 2018～19年度 初となる議会自体が主催	住民団体主催 原発を自分ごと化 島根県松江市 2018年度
コミュニティ施設 和歌山県海南市 2019年度	市営プール 岡山県津山市 2019年度
子どもの遊び場 群馬県富岡市 2019年度	持続可能な地域交通 鳥取県琴浦町 2020年度

▽自分ごと化会議に参加した外部専門家 ※所属は参加当時のもの

河野太郎（衆議院議員・ワクチン担当大臣他）
 山中光茂（医師、元三重県松阪市長）
 中田華寿子（ライフネット生命常務取締役、スターバックスコーヒージャパン執行役員）
 真鍋康正（ことでんグループ代表取締役）
 塚本恵（キャタピラー代表執行役員）

福嶋浩彦（中央学院大学教授、元我孫子市長、元消費者庁長官）
 岸紅子（NPO 法人 日本ホリスティックビューティ協会 代表理事）
 稲垣文彦（中越防災安全推進機構震災メモリアルセンター長）
 立谷光太郎（博報堂執行役員）
 高野誠鮮（石川県羽咋市元職員・立正大学客員教授） など

無作為に抽出した住民に会議参加のご案内

- 住民基本台帳から2,000人（18歳～）を抽出・送付、応募者26人が委員となる。

<第1回> 本日 自分ごと化会議の趣旨説明 テーマの現状把握（把握）

- 会議の目的、進め方の説明
- 町のごみ処理の現状説明
- 自己紹介および家庭ごみに関して日常生活で感じていることを議論する。

<第2回> ゴミの減量に向けた取組みの事例 紹介、議論（把握⇒発散）

- ナビゲーターを招いて、地域や民間のごみの減量に向けた取組みや、その際に必要となる考え方について、事例を紹介する。
- 委員が日常生活で感じる課題やその改善策などを議論する。
- 議論した内容を最終的に「改善提案シート」に記入する。

<第3回> テーマについての議論 （発散）

- 第2回の議論をとりまとめたものも参考にしながら、委員が日常生活で感じる課題やその改善策などを議論する。
- 議論した内容を最終的に「改善提案シート」に記入する。

<第4回> 意見とりまとめ（集約）

- これまでの議論を整理した「提案書素案」を基に、さらに議論を深めて集約につなげる。
- これらをまとめたものが会議としての「提案書」となる。

<第5回> 報告会

- 「提案書」の内容が町の計画にどう反映されるのか町から報告する。
- 委員自らが今後どう取り組んでいくのか意見交換する。

① みんなで考える家庭ごみ減量会議委員（無作為に選ばれた住民）

テーマである『家庭ごみの減量』について、現状を把握し、普段の生活から感じることなどをもとに住民間で議論する。議論しながら感じたことを「改善提案シート」にまとめる。

② コーディネーター（進行役・構想日本）

議論の進行役および論点整理、必要に応じて論点の提示、事実関係の確認などを行う。

③ ナビゲーター（外部の視点からの論点提示役・外部有識者）

議論を行う際の論点提示役。専門的視点からの意見や視点の提供を行う。

第2回に
参加予定

④ 企画政策課職員やごみ処理事業者など

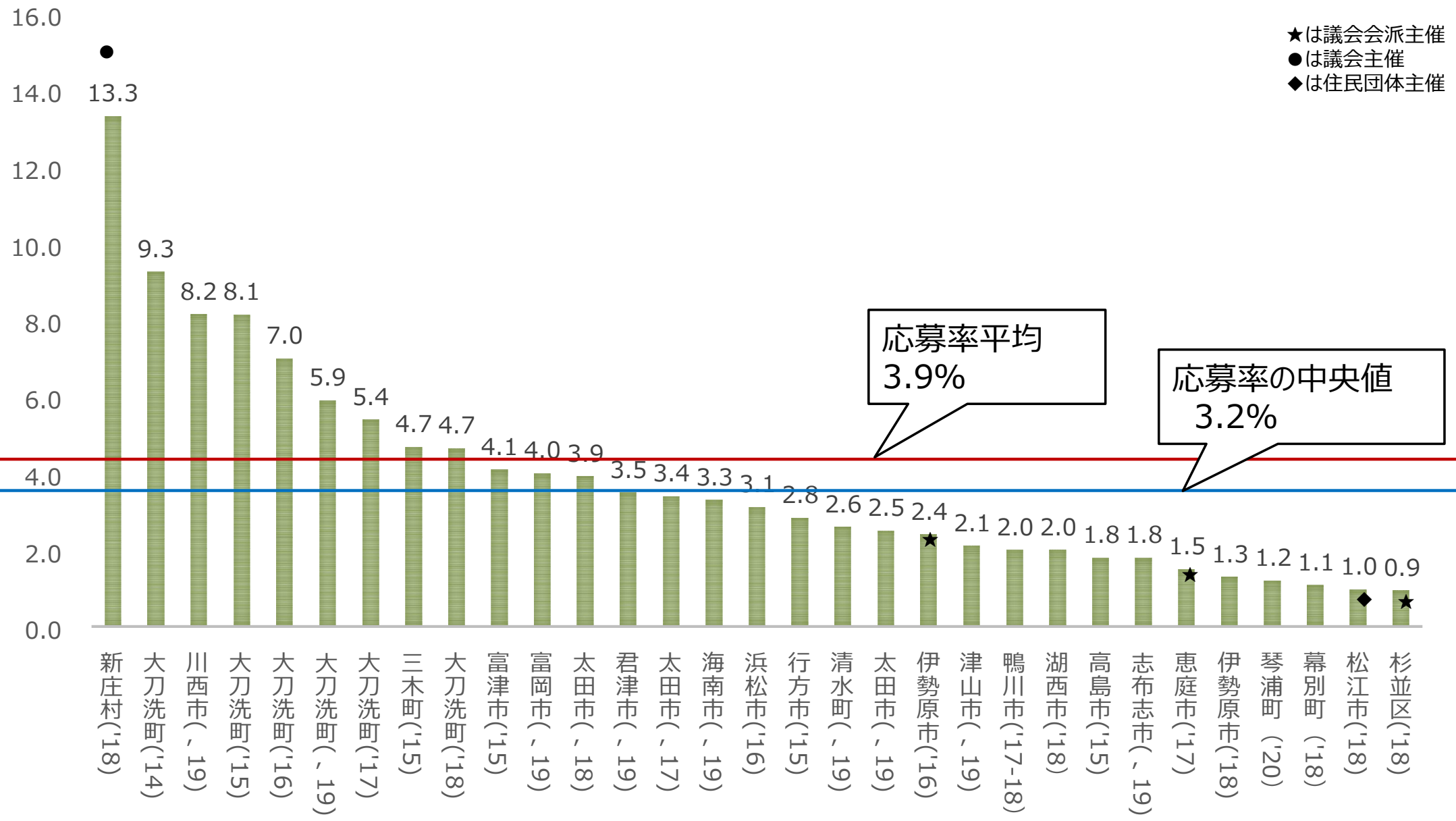
テーマに関係する職員や事業者が、地域の現状や行政の取組みなどについて委員に説明や、必要に応じて会議委員との議論に参加。

⑤ 事務局（企画政策課）

全体の進捗管理。必要に応じて発言。



参考① : 「自分ごとと化会議」の応募率

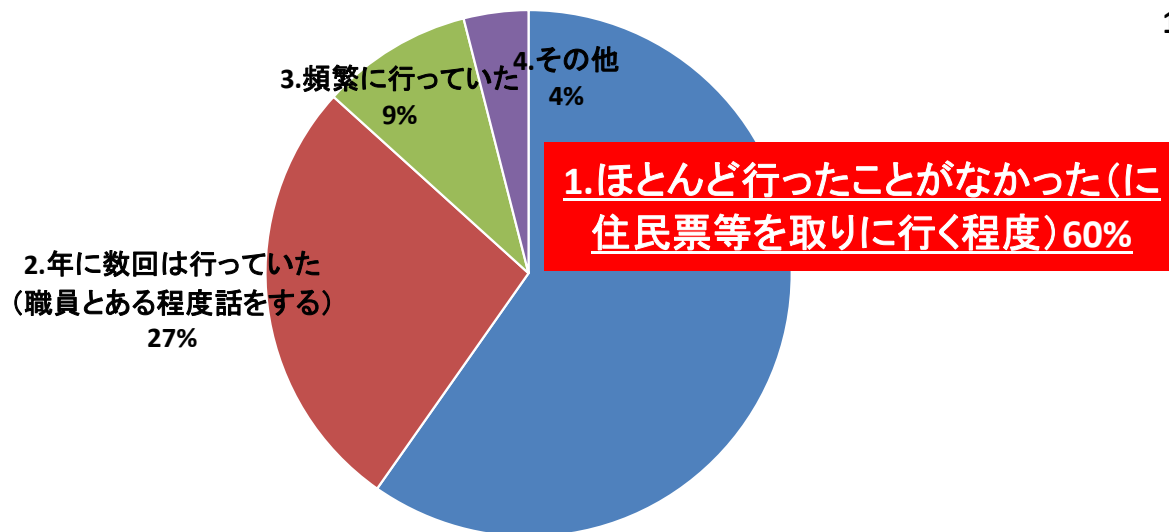


自治体によって、応募率に大きく差が出る。昨年度の琴浦町は1.2%。今年度は1.3%。

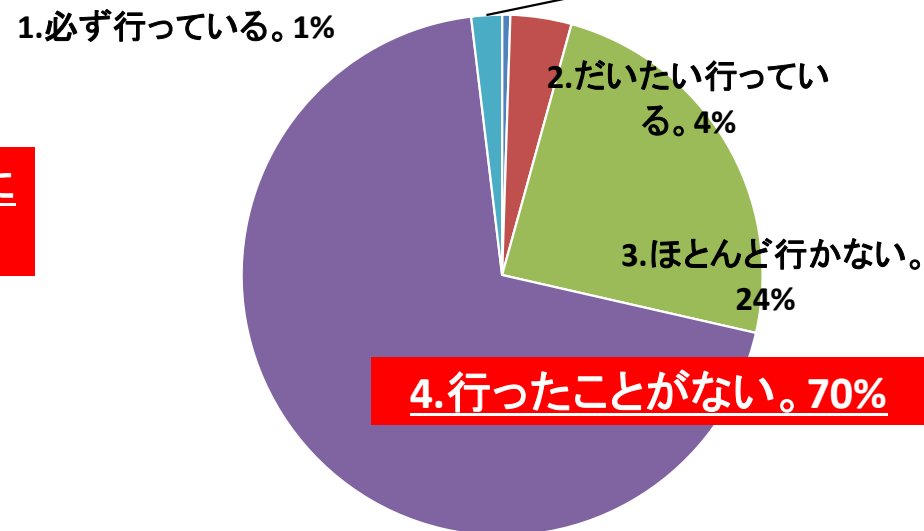
参考② 自分ごと化会議参加住民アンケート

○「自分ごと化会議」に参加した住民へのアンケート結果※より。

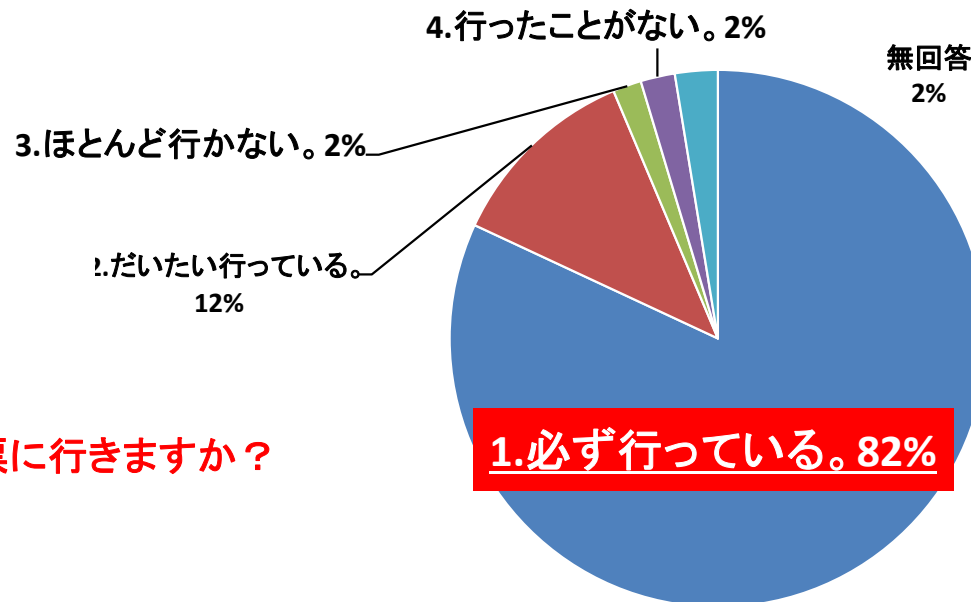
①自分ごと化会議前の役所との関わり頻度



②議会の傍聴に行きますか？

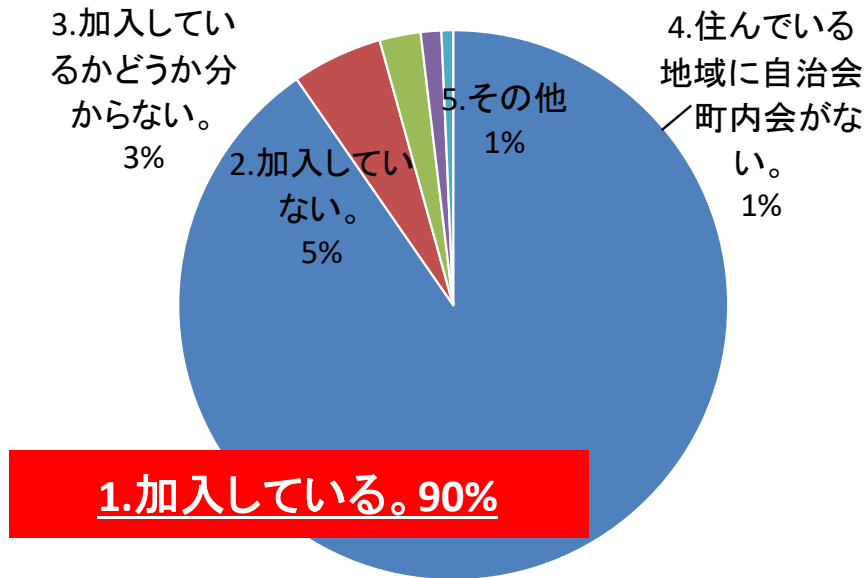


③選挙の投票に行きますか？

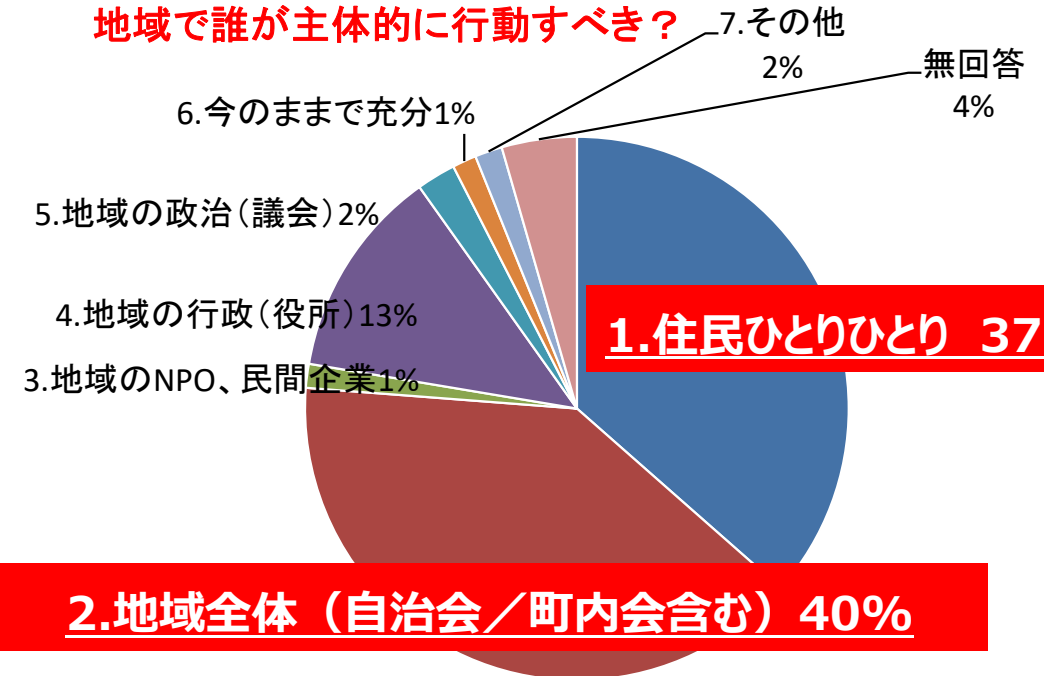


※2013,14年度に自分ごと化会議を実施した12自治体の住民約1,100名が対象。回答率52%。

自治会への加入状況



地域で誰が主体的に行動すべき？



アンケート結果から見えてくる参加住民の特徴

1. 役所との接点が少ない
2. しかし、投票や自治会加入など社会的な関心は高い
3. 自助、共助の意識がきわめて高い

無作為抽出は、「意識は高いが、接点のない住民」がまちづくりに参加するきっかけになる手法。

無作為抽出参加住民の「その後」

<OB・OG会の結成>

● 大刀洗町

これまで6回住民協議会を実施しOB・OGが約200名。その人たちでOBOG会を結成し、定期的に勉強会や懇親会を開催（2018年には町議会を「招待」して「若者と政治」をテーマに実施）。案内状の送付や会場設営などすべて住民が行っている。参加住民が一体化されていることが特徴。

● 川西市

「歴史・文化の活かし方」をテーマに議論した市民の有志が、会議終了後数か月で「まちの宝物サポート隊」を結成。議論の中で出ていた「楽しく学ぶ」ことを具現化するため、「かわにしかるた」を作成（コロナ禍の重要な遊び道具として多くのメディアに取り上げられる）。現在もLINEグループを作って情報共有。

<個人の変化>

1. 協議会に参加して以降、地域のことを「自分事」として考えることの必要性を感じて、自分が住む地域の「女子会」（勉強会）を結成。（富津市、40代女性）
2. 学校への関わりが必要だと感じ、PTA会長の選挙に立候補、就任。（大刀洗町、40代男性）
3. 行政の仕事に関心を持ち、公務員採用試験を受験。（大刀洗町、20代女性）
4. 協議会に参加したことで、心の病を患った自分の経験を活かせることもあると感じ、子育ての悩み相談に関するサークルを立ち上げた。（太田市、30代女性）
5. 参加していた市民の有志（もともと知り合いではない）で地域のことを考えるためのNPO法人を結成。

「自分ごと化」の先の行動の変化も起きている。

これからのまちづくりの基本的な考え方

いかに小さくして「質」を高めるか

- 町の規模
- 公共施設 など

財政的観点だけでなく、「住民のため」に規模を縮小することが大前提。

住民がいかに町のことを「自分ごと化」できるかがポイント

自分ごと化会議

多様な住民がしっかりと考え議論すれば、自ずと良い結論が導き出される。

私に関係ある？ ある！